

【美術】

教科書の枠にとらわれない授業プラン

～ClassPad.net の各種ふせん・授業支援機能を活用する～

旧派 vs 新派～日本近代洋画の動きを知る授業
日本近代美術史について学ぶ。

【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：日本近代美術とその作家や作品について触れることで、重要文化財などを知る。
生徒向けの目標：明治時代の文明開花や欧米からの影響を美術の面から知り、歴史と絡めて学ぶ。

【ClassPad.net 活用によるメリット】

- ・授業準備の時短/効率化：参考リンクやキーワードをふせん上で流れにそって示すため、生徒は効率的に確認・イメージすることができる。参考図版のやり取りが容易に。
- ・板書時間削減：デジタルノートを投影するだけ。
- ・協働学習促進：ファイルふせんと授業支援機能を用いて生徒同士の作品鑑賞や対話を可能に。

授業の流れ

ClassPad.net での操作

step1

今日のテーマ：日本における油絵のはじまり
高橋由一、旧派、新派、浅井忠、黒田清輝

目的・概要の説明

今回のテーマは西洋技法、油絵の具や身近なところというと水彩画・鉛筆などが日本に広まった流れについて。油絵の具より前は日本では何を使って絵を描いていたか、導入の一つとして質問するのも良い（答：日本画、水墨画など）

テキストふせんに共有。

step2

高橋由一：たかはし ゆいち
日本で最初の本格的な洋画家。

近代美術史の解説①

高橋由一は日本で最初の本格的な洋画家。日本画と区別して「洋画」と呼ばれることも紹介すると良い。
また、参考図版として《花魁図》を見せ、モデルが「私はこんな顔ではない」と泣いて怒ったと言われているエピソードも紹介できる。浮世絵に見られる理想化やデフォルメされた表現と比べると非常にリアルである。

ファイルふせんを用いて、参考図版を共有。

step3

工部美術学校と浅井忠
・明治政府によって創設
・イタリア人画家のアントニオ・フォンタネージが教える
・主な生徒に浅井忠や小山正太郎など

近代美術史の解説②

1876年 明治政府によって工部美術学校が創設され、教授としてイタリア人のアントニオ・フォンタネージが来日。門下生に浅井忠などが挙げられる。
しかしフォンタネージ帰国後、後任と合わなかった浅井たちは学校を辞め、明治美術会というグループで活動するようになった。

ファイルふせんを用いて、参考図版を共有。

step4

黒田清輝 登場
・語学の勉強のために留学したが、画家を目指すようになった。
・ラファエル・コランに師事。

近代美術史の解説③

1893 年、フランスに留学していた黒田清輝はラファエル・コランの外光派の作風を学んで帰国。
現在の東京藝術大学である東京美術学校などでも教えた。

ファイルふせんを用いて、参考図版を共有。

step5

参考：明治浪漫主義
・藤島武二
・青木繁

近代美術史の解説（補足）

明治浪漫主義について紹介する。藤島武二や青木繁といった作家が挙げられる。個人の感情や内面、幻想、神話的世界を重んじ、西洋の近代美術の技法と日本の伝統的なロマンチズムを融合させた表現が特徴。

ファイルふせんを用いて、参考図版を共有。

step6

浅井VS黒田 それぞれの特徴
・旧派／脂派
・新派／紫派

旧派・新派の紹介

浅井忠を筆頭とする旧派（脂派）と、黒田を筆頭とする新派（紫派）のそれぞれの特徴を確認する。
脂派は文字通り、茶色の多い作品である。
対して紫派は、影に紫や青を入れるなどの特徴から名付けられた。
ただし、黒田は自ら「新派・紫派」と言ったわけではなく、そう呼ばれることに否定的な言葉も残している。

ファイルふせんを用いて、参考図版を共有。

step7

？ あなたはどちらに教わりたい？

- ・新派／紫派 黒田清輝
- ・旧派／脂派 浅井忠
- （または明治浪漫主義？）

※浅井は京都高等工芸学校など、黒田は白馬会や東京美術学校で、それぞれ教鞭をとった。
浅井忠の弟子には梅原龍三郎や石井柏亭などがある。

グループワーク

それぞれの特徴を確認したところで、どちらの作風が好きか考え、グループごとに話し合わせる。

授業支援機能を用いて個人作成のふせんをグループ内で送受信させる。その後、教員のデジタルノートに同時編集機能で参加させ、用意したテキストふせん（テンプレート）に要約を書き込ませる。

step8

宿題

- ・浅井忠か黒田清輝、どちらかの作品で好きなものを1点提出すること。
- ・300字以内の理由も添えること。

まとめ・宿題

それぞれの特徴をもう一度おさらいする。
宿題として、黒田清輝か浅井忠の作品で1点気になったものを提出させる。

宿題はファイルふせんに記載させ、授業前日までに教員に送信するように指示する。
提出されたファイルふせんは、次回授業の冒頭で紹介する。
（または、提出させた作品の中から1点選び、次回授業の冒頭で対話型鑑賞をするのも良い）

step9

参考
・浅井忠の作品を見るなら：千葉県立美術館
・黒田清輝の作品を見るなら：黒田清輝記念室

備考

宿題にあたって、浅井と黒田それぞれの作品を多く所蔵する美術館を紹介する。

ファイルふせんで参考画像を共有。